特別史跡名古屋城跡全体整備検討会議　庭園部会（第 27 回）

日　時：令和 3 年 8 月 23 日（月）14:00～15:00

場　所：WEB 会議

傍聴所要会場：西之丸会議室

次　　第

1　開会

2　あいさつ

3　議事　　令和４年度の発掘調査について　　＜資料１＞

4　報告　　二之丸地区の発掘調査について　　＜資料２＞

5　閉会

特別史跡名古屋城跡全体整備検討会議 庭園部会（第 27 回）出席者名簿

日　時：令和 3 年 8 月 23 日（月）14:00～15:00

場　所：WEB 会議

傍聴所要会場：西之丸会議室

（敬称略）

■構成員

氏　名	所　　属	備 考
丸山　宏	名城大学名誉教授	座長 （リモート）
仲　隆裕	京都芸術大学教授	副座長 （リモート）
粟野　隆	東京農業大学教授	（リモート）
高橋　知奈津	奈良文化財研究所研究員	（リモート）

■オブザーバー

氏　名	所　　属	備 考
山内　良祐	愛知県県民文化局文化部文化芸術課 文化財室	（リモート）

令和4(2022)年度発掘調査位置（案）

令和4(2022)年度予定　令和3(2021)年度予定　平成25(2013)～令和2(2020)年度　昭和49(1974)・昭和51(1976)・昭和52(1977)年度

名勝指定範囲

※昭和49年度～52年度の調査位置は簡易図面からの転記であり、実際の調査範囲とずれが生じている可能性がある。

令和4(2022)年度二之丸庭園発掘調査

調査地点	調査規模 面積(㎡)	調査目的	掘削方法	調査手順	留意点
北池 ①・②	護岸背面約2㎡ 池底約3㎡	池の三和土護岸背面の構造確認と池底下の状況確認。 過去の調査では三和土護岸・池底三和土の検出を行ったが、池の修復整備を行うにあたり、護岸の背面や池底下の状況確認が必要と考えられ、三和土の構築方法や年代検討の手掛かりとする。	人力掘削を基本とする。	人力にて地山まで掘削し、三和土背面や池底下の状況確認を行う。ただし、安全を優先し、掘削を終了することもある。 平面図および土層断面図を作成し、写真撮影を行う。	調査後は現況復旧を行う。
薬医門周辺 ③	約390㎡	薬医門とその周辺の塀跡遺構、東御庭の遺構残存状況確認。 薬医門は外縁部を西部と東部に区画する門であることが絵図から伺え、外縁部を整備する際の核となるものの一つである。発掘調査によってその位置を特定し、外縁部の整備を行うための検討材料とする。 また、薬医門周辺の塀跡遺構は、令和2(2020)年度の第8次発掘調査で確認している。その延長を確認できる可能性があり、庭園北部の塀跡位置の特定の手掛かりとする。 さらに、薬医門や塀跡の南側を調査し、東御庭の遺構の残存状況を把握する。	人力掘削を基本とする。ただし表土は機械掘削とする。	表土は小型重機にて掘削を行う。表土より下層は人力にて近世の盛土上面まで掘削し、遺構の検出作業を行う。平面図および土層断面図を作成し、写真撮影を行う。	令和2年度の調査により判明している基本層序を考慮し、遺構面を傷めないように慎重に掘削作業を行う。近世の盛土上面までの検出にとどめ、遺構の掘削はしないものとする。
余芳東側 ④	約180㎡	茶亭「余芳」東側の近世遺構確認。 令和3(2021)年度に余芳東側の調査を行う予定だが、予算によって、当初の計画より規模を縮小せざるを得なかったため、当初計画していた残りの面積を調査し、「余芳」の移築再建にあたって周辺の復元整備を行うための検討材料とする。	人力掘削を基本とする。ただし表土は機械掘削とする。	表土は小型重機にて掘削を行う。表土より下層は人力にて近世の盛土上面まで掘削し、遺構の検出作業を行う。平面図および土層断面図を作成し、写真撮影を行う。	令和2年度の調査により判明している基本層序を考慮し、遺構面を傷めないように慎重に掘削作業を行う。近世の盛土上面までの検出にとどめ、遺構の掘削はしないものとする。

調査は名古屋城調査研究センター学芸員が担当する。

現状変更の周辺に仮囲いを設ける。掘削に伴う発生土は調査区脇に仮置きして、シートなどで養生を行う。

調査終了後は遺構面を山砂で保護した後に発生土により埋め戻す。

調査する範囲は堆積土の厚みや土の締まり具合によって、作業時の安全確保を優先して縮小することもあり得る。

二之丸地区の発掘調査について

従来の計画について

本調査は特別史跡名古屋城跡の二之丸南部の保存活用を目的とし、平成 30 年度(2018)より行っているものである。

令和元年度(2019)までに調査区 1～10 の 10 か所の調査を実施し、その成果を『名古屋城二之丸地区試掘調査報告書 第 1 次・第 2 次調査』にまとめた。令和 2 年度(2020)は全体整備検討会議で承認された調査区 11～15 の 5 か所を調査する計画であったが、実際には調査区 13・14 の調査を実施し、調査区 11・12・15 は令和 3 年度に繰り越した(図 1)。

令和 2 年度(2020)の調査成果について

令和 2 年度(2020)は全体整備検討会議で承認された調査区 11～15 の 5 か所のうち調査区 13・14 の調査を実施した(図 2)。

調査の結果、調査区 13・14 ともに近現代遺構の影響を大きく受けているものの、一部で近世遺物面と考えられる層が残されていることがわかった(表 1)。

令和 3 年(2021)度の調査計画について

繰り越した調査区 11・12・15 の発掘調査を行う。

調査区 11 は礎石･束石･雨落溝等の二之丸御殿に関連する遺構の検出を目的としている。調査区 12 は二之丸御殿の西境界を構成する塀の遺構を検出することを目的としている。調査区 15 は近世の馬場関連遺構が検出を目的としている。調査区の形状や面積について表 2 にまとめた。

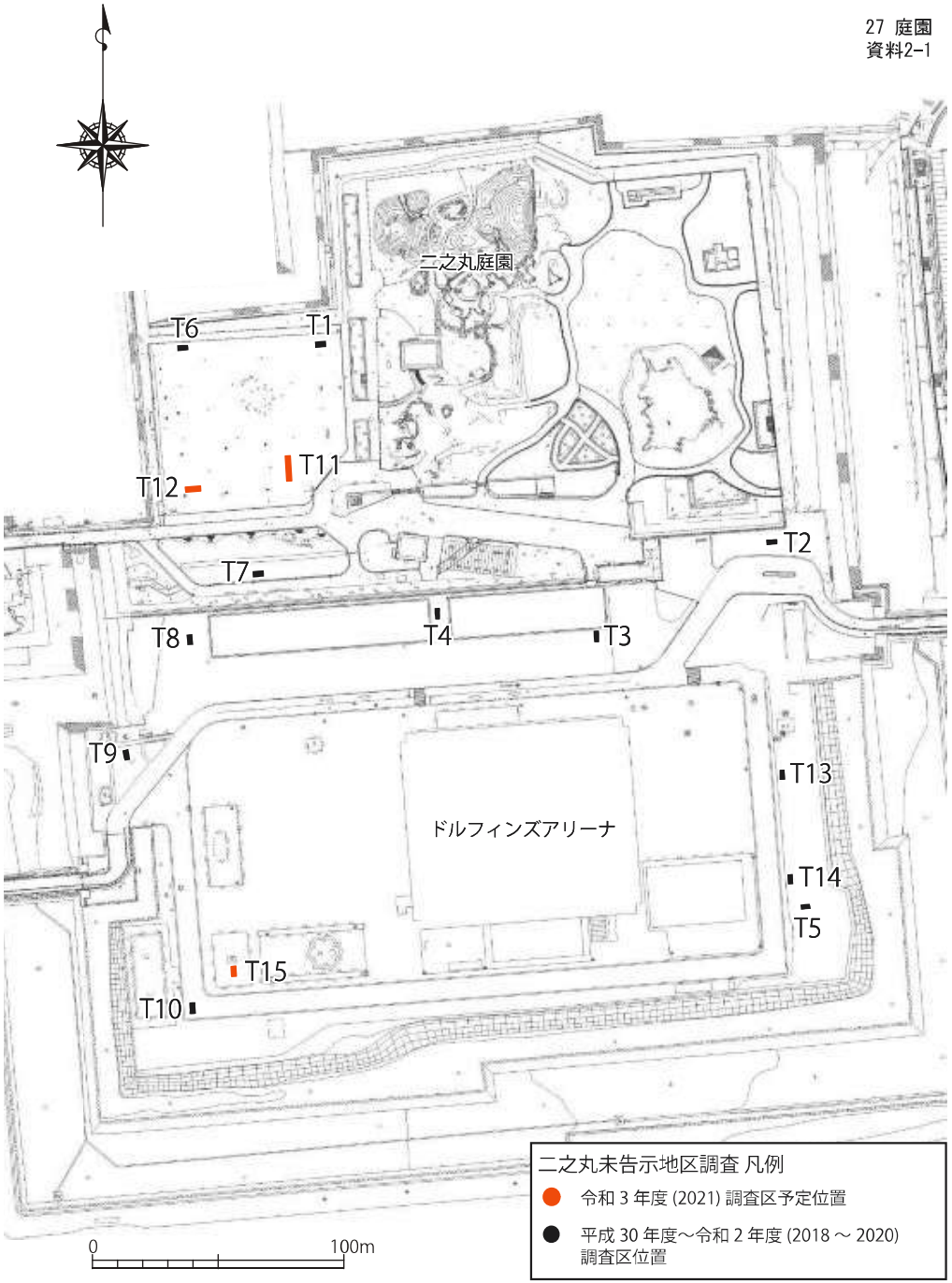

図 1　二之丸地区調査区位置図

名古屋城二之丸地区 令和２年度（2020）試掘調査報告

調査期間 令和３年３月８日から３月19日

調査地点 愛知県体育館の東側縁辺

調査面積 16 ㎡(2m×4m ×2ヶ所)

表1　調査目的・結果

トレンチ番号	調査目的	調査結果
T13	向屋敷の北境の確認	近代(標高13.1m～13.5m)と近世(標高12.9m～13.0m)の整地層を確認 トレンチの北端で向屋敷北境の構造物に伴うと思われる石を確認 トレンチの南側で馬場に関わると思われる砂質盛土を確認
T14	馬場関連遺構の確認	近代の遺構面を3面確認(各々の検出標高13.1m、13.4m、13.5m) 標高13.1mで花崗岩敷石を検出、第六連隊の厩に関わる遺構の可能性が高い 近世の遺構面を2面確認(各々の検出標高12.8m、13.0m)

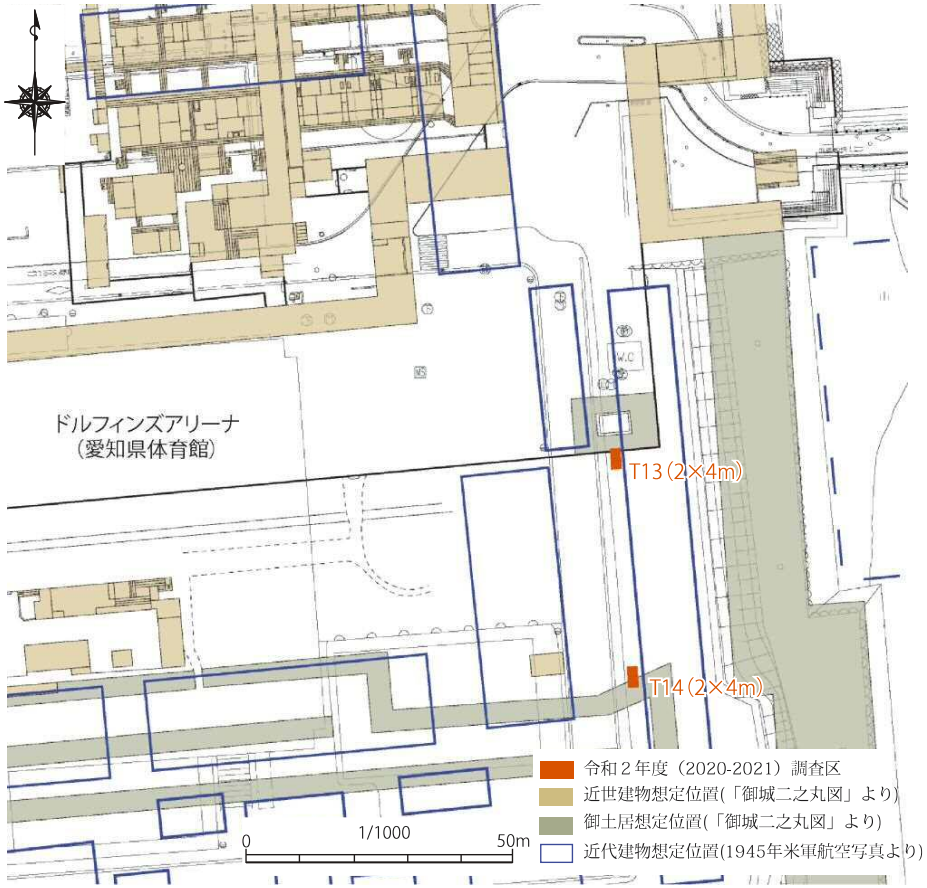

図2　トレンチ位置図

T13 完掘状態（南から）

T13 北壁根固め石？（西から）

T13 中央トレンチ 砂質盛土（東から）

T14 完掘状態（北から）

T14 花崗岩板石（北から）

T14 中央トレンチ南側西壁断面（東から）

図3　T13・14 完掘状況写真

表2　調査内容一覧

調査区	調査規模			調査区の長軸方向	設定目的	備考
	長さ(m)	幅(m)	面積(㎡)			
11	10	2	20	南北	二之丸御殿西部の遺構(二之丸御殿に伴う礎石、束石、雨落ち溝等)を確認。 御城二之丸図によれば御夜居之間溜り、御廊下、楽器之間、中庭付近と考えられる。	調査区の大半が近代兵舎の内部に位置するが、図6・7・9から、兵舎内部には近世遺構が残されている場合があることがわかっている。 また、近代建物(兵舎)位置を確定させ、次回以降の調査区設定に活かすことができる。
12	6	2	12	東西	二之丸御殿の西境を構成する塀遺構(礎石、側溝等)の確認。	
15	4	2	8	南北	馬場関連遺構(土居裾、砂層等)の確認。	『金城温古録』では馬場内部は砂がまかれており、高さ3尺、幅9尺からなる土居で囲まれていると記録されている。